

賛助会員制度へのご支援ありがとうございます

賛助会員制度につきましては、多くの皆さまに温かいご支援をいただき感謝申し上げます。賛助会員の皆さまの継続的なご支援のおかげで安定した活動を推進していくことができます。今後とも、共生社会の実現を目指し、健全な運営に努めてまいりますので、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和6年度にご賛同いただいた皆さま（順不同）

平川 靖幸 様	坂東 泰宏 様	河原 弘明 様	正木 祐史 様	鴨島町身体障害者会
賀治 清 様	古庫 計子 様	乾 和雄 様	上田 恵美 様	川島町身体障害者会
滝 壽郎 様	一村 幸子 様	松田 卓男 様	長濱ひかる 様	山川町身体障害者会
勢登 治義 様	竹田 国利 様	荒川 英子 様	瀬川 一夫 様	
坂東 正文 様	尾之上信義 様	鎌田 信隆 様	村上 司郎 様	
後藤田 賢 様	石原千代子 様	富 弘生 様	佐條 秀明 様	
東谷 克子 様	桃井 春男 様	多田 博一 様	佐條 和美 様	
中山 善嗣 様	大久保愛子 様	福島美智代 様	鴻田美代子 様	

ありがとうございました。

賛助会入会のご案内

◆賛助会員年額

個人1口 1,000円

団体1口 10,000円

何口でもお申込みいただけます。

◆会員特典

広報紙「身障とくしま」をお届けします。

令和6年度事業報告

- 5月27日(月)理事会
- 6月24日(月)評議員会、運営協議会
- 6月29日(土)ふれあいボート大会(福祉基金助成事業)
- 7月16(火), 23(火), 30日(火)スマホ教室
- 8月27日(火)ふれあい音楽会(福祉基金助成事業)
- 11月 8日(金)第48回中・四国ブロック福祉大会(かがわ大会)
- 11月 8日(金)徳島県社会福祉大会
- 11月28日(木)徳島県身体障害者相談員研修会
- 12月 5日(木)ふれあい視察研修
- 12月 7日(土)第43回障がい者の集い県民大会 第43回徳島県身体障害者福祉大会
- 12月17日(火)理事会
- 1月18日(土)評議員会、運営協議会
- 3月19日(水)理事会
- 3月27日(木)徳島県社会参加推進協議会

令和7年度事業予定

- 4月23日(水)第103回評議員会
- 5月28日(水)第194回理事会
- 6月12日(木)第70回日本身体障害者福祉大会(かながわ大会)
- 6月26日(木)第104回評議員会 第195回理事会
- 10月 2日(木)第26回中・四国ブロック相談員研修会(米子市)
- 11月 7日(金)第49回中・四国ブロック福祉大会(こうち大会)
- 11月27日(木)徳島県身体障害者相談員研修会
- 12月18日(木)第196回理事会
- 3月 徳島県社会参加推進協議会 第197回理事会

東京2025デフリンピック 応援しましょう

徳島県身体障害者連合会 理事
NPO法人徳島県聴覚障害者福祉協会 理事長

平 光江

2025年11月15～26日、第25回夏季デフリンピック競技大会が東京で開催されます。70～80の国・地域から約3000人のデフアスリートが集結します。日本では初めての開催で、100周年の記念となる大会です。大会ビジョンでもある‘誰もが個性を活かし力を発揮できる’共生社会の表現をめざしています。

デフリンピックとはきこえない選手の国際的なスポーツ大会です。第1回夏季大会は1924年(大正13年)にフランスで開かれました。パラリンピックよりもデフリンピックの方が歴史が長いです。競技ルールはオリンピックと同じで、きこえない選手のために視覚的補償がなされた競技環境であることが特徴です。2022年ブラジルで開催された第24回大会では日本選手団もメダル総数30個と大活躍しました。

せっかくの機会ですので、東京2025デフリンピックをお楽しみください。盛り上がり、応援しましょう！

編集・印刷 社会就労センターかもな
〒770-0045 徳島県徳島市南庄町5丁目77-3 TEL088-632-1333 FAX088-632-0520

身障とくしま

社会参加推進
センターだより

第69号

社会福祉法人徳島県身体障害者連合会
発行人 理事長 林 徳太郎

〒770-0005 徳島市南矢三町2丁目1-59 徳島県立障がい者交流プラザ3F
https://kenshinren.e-tokusima.or.jp/ 088-631-6266 088-631-6211



2025.4月号

新時代に向かって 徳島県身体障害者連合会 理事長 林 徳太郎



米価の価格高騰、諸物価の値上げ等、庶民の生活を脅かす情報が飛び交う中、新年度を迎えました。今年度は、評議員(任期4年)、理事(2年)、監事(2年)及び運営協議会委員(2年)の一斉改選年に当たります。これに対応するため、昨年度から、本紙67号でお知らせした将来構想検討委員会の答申に基づき、組織改革等を進めてまいりました。まず、理事の定数「6名以上8名以下」を「8名以上10名以下」に、評議員の定数「7名以上12名以下」を「11名以上13名以下」に改める定款の変更については、去る3月19日開催の理事会に提案し、原案どおり承認されました。この後、評議員会の決議を得て、知事の認可を受けることとなります。

次に、身体障害者手帳の所持者は、肢体、視覚及び聴覚は軒並み減少しているが、内部のみ増加し、かつ、人数も全体の34%(令和6年3月31日)と肢体(45%)に次いで多くなってい

ます。そこで、内部にも理事1名、評議員2名を割り当てることとされました。3点目は、内部障害者団体の組織化。早速、昨年12月23日内部障害者懇談会を開催しました。私がデータに基づき内部障害者の現状などについて説明。その後自由に各団体の現状や内部障害者団体の組織化について意見交換をしていただきました。この会合は、引き続いて開いていただく所存です。

さて、長年にわたり県下の聴覚障害者やその支援者が制定を求めてきた「徳島県手話言語条例」が県議会で可決され、去る3月18日公布されました。条例の制定に当たっては、「徳島県手話言語条例検討委員会」が設置され、県聴覚障害者福祉協会理事長で当連合会の理事である平光江氏や私も委員として参画させていただきました。本年は、東京2025デフリンピックが開催されます(11月15～26日)。日本初開催で、いいタイミングで条例が制定されました。

昨年度のふれあい視察研修は、大阪市の舞洲障がい者スポーツセンターの視察でした。宿泊施設を併設した

障害者専用のスポーツ施設として、平成9年に開設。温水プールもあり、私は平成10年9月に開催された第15回日本身体障害者水泳選手権大会、第23回大会にも出場したことがあり、思い出深い施設です。宿泊も格安で、1泊研修もいいのではないかと考えています。

昨年3月3日に起工式を行い、工事を進めていた新施設『障害者支援施設小星園』については、去る3月15日落成披露会を挙行了しました。感染症濃厚接触者等の対応を行う「緊急受入室」も整備しており、障害者の安全を確保する施設です。当連合会が経営している眉山園共々、職員が働きがいのある職場として、そして利用者にご満足いただける施設として運営してまいります。

今年は巳年。巳は脱皮するごとに大きく成長すると言われますが、巳年にあやかって、当連合会も障害別団体・市町村会共々、新時代に向かって大きく成長していこうではありませんか。

令和6年度徳島県社会参加推進協議会を開催

障がい者社会参加推進センター事業が障がい者の要望に配慮し、その総意に基づいて実施されるよう必要な協議や協力を行うため、関係行政機関、身体障がい者関係団体、知的

障がい者関係団体、精神障がい者関係団体、社会福祉団体等の代表者で構成される徳島県社会参加推進協議会(協議会構成団体15団体)の令和6年度会議が、令和7年3月27

日、徳島県立障がい者交流プラザで開催されました。各団体の活動や取り組みを共有するとともに、障がい者を取り巻く課題等について意見交換しました。

手話言語条例制定の動き

徳島県身体障害者連合会 理事
NPO法人徳島県聴覚障害者福祉協会 理事長

平 光江

昨年、徳島県議会で手話言語条例が制定される話が出てきました。そこで「手話言語条例検討委員会」が設置され、私を含め14名で3回検討を重ねてきました。盲ろう者や触手話のことを初めて知った方もいました。「きこえない人、きこえにくい人はコミュニケーション手段とし

て手話通訳が必要です。これからもっと手話を普及していきたい」との意見がありました。

令和7年1月29日には聴覚障害者制度改革推進徳島本部役員が後藤田知事と面会し、手話言語条例の早期制定を強くお願いしました。そうした活動が実り、3月10日手話言

語条例が県議会で制定されました。みなさまのご尽力の賜物だと大変うれしく思っております。

「ありがとう」「おはよう」といったあいさつが手話でできるような社会になればいいなと切に願っています。

身体障害者相談員研修会に参加して

徳島県身体障害者連合会 評議員

佐々木 輝義

令和6年11月28日の研修会に参加し、県障がい福祉課の吉田圭佑主任、佐那河内村の伊藤会長、県身連の林理事長のご講演を拝聴させていただきました、有意義な研修となりました。

「福祉の取り組み」「県連合会の当面する諸問題」と、いずれも深刻な課題で、障害者総合支援法の施行後も就労場の閉鎖、解雇、虐待、差別等があり、障がいの尊厳促進に社会がまだ対応できていないように思われます。

佐那河内村の伊藤会長さんのよう

に、地域に溶け込み、地域のために、地域とともに事を成す、「私たち障害者が元気になる」とどまらず、地域まで元気にしようという気概に感銘を受けました。

託つ（かこつ）より鑑みる、これこそ当面する問題解消の第一歩ではないでしょうか。私たち那賀町連合会も地域の方々に当会の事業に参加いただいたり、老人会や小中学生との合同事業やこども園にプレゼントを届けたりと、微力ながら活動しています。そのおかげか、昨年度は新

入会者2名、再入会者1名（木頭支部）のうれしい出来事もありました。障害者会自身が本当に楽しみながらの活動であり続けることが大切だと思います。

私たち自身、障壁を乗り越える体力を養いながら、受け身から攻めに、真の合理的配慮が提供されることを願って、活動していかなければと思っています。



70人の相談員が参加

ふれあい視察研修に参加して

徳島県肢体障害者協会 評議員
石井町身体障害者連合会 理事

島野 政勝

令和6年12月5日、秋らしい青空のもと、希望をもって「ふれあい視察研修」に参加しました。

1か所目の見学地は大阪市舞洲障がい者スポーツセンター。宿泊もできる館内はバリアフリーの構造で、移動が楽にできました。ポッチャ、ボーリング、卓球、水泳などパラスポーツができるアリーナやプールなど立派な施設を見て、参加者から「うらやましいなあ」と歓声が起こりました。パラスポーツ体験もできるそうです。

お楽しみの昼食は創釀400年の清酒「櫻正宗」の酒蔵がある櫻正宗記念館で、美味しい料理を堪能しました。

午後は神戸市南京町を散策。中国風の街並みからはいいおなが漂ってき、お土産屋さんにはパンダなどが並び、中国に迷い込んだような気分になりました。

解散後、自宅に向かう路線バスに乗っていると、気がゆるんでいねむりをしてしまいました。バスの運転手さんが「お客さん、いつもここで

下りよるけど、今日はどうするで。」と起こしてくれたので下車できました。地域のみなさんに支えられていると実感しました。

身体障害者手帳を持って20年以上過ぎ、障害も重くなってきましたが、みなさんと研修に参加できて楽しい1日でした。



アリーナの説明を熱心に聞きました

災害対策に向けた取り組み

徳島県肢体障害者協会青年部研修会

徳島県肢体障害者協会青年部研修会が2月13日（木）に開催され、15人が参加し、防災について学びました。神戸市「人と防災未来センター」では阪神淡路大震災で被災した89歳の語り部による講話を聞きました。地震発生10数秒後に家がつぶれた直下型地震の恐ろしさ、一日で手のひらですくった井戸水5杯しか口にできず、それが3日間続いたことなど大変だった当時の状況をお話ししてくれました。日頃からの

備えとして、①水は大切に使う、②部屋の片づけが大事、明日着る服を枕元に準備、③近所の人と仲良く、あいさつをしよう、④避難リュックを準備して、防災避難訓練に参加しよう、⑤自分の命は自分で守ることなどを学びました。「1・17シアター」では地震のすさまじさを映像と音で体感し、声を発することを忘れてしまうくらいの恐ろしさを感じました。

「いつ来るかわからない」ではなく、「いつか来る」と思って地震に

備えることの重要性を感じ、帰宅してすぐに避難リュックに必要な物を詰め込みました。



話し上手な語り部のお話引き込まれました

「誰一人取り残さない防災へ」

徳島県身体障害者連合会 評議員
佐那河内村障がい者会 会長

伊藤 博美

私たちの住む佐那河内村根郷地区では、テントなど防災備品も十分に揃っておらず、また資機材を保管する倉庫もなく、いざ災害が発生したときの不安を感じておりました。そこで、私と家内の2人で宝くじの助成金で整備が出来る「コミュニティ助成事業助成申請」に向けて取り掛かりました。友人の1人が協力してくれたので3人で協議しながら計画をまとめ、根郷地区の住民の方々に事業の取り組みについて説明し了解を得て申請し、助成いただ

けることになりました。令和7年3月に倉庫が完成し、防災備品も整備することができました。早速、住民、消防団、警察や救護関係者が集まり、新設された防災倉庫と新たな資機材を取り入れた地区の防災対策について話し合いました。

これまで、地域の生きがいづくりとして農業のビジネス化や福祉連携等への支援など、地域を元気に、人と人とのつながりを強化する仕組みの構築に取り組んできましたが、こ

の度の「根郷防災倉庫」設置が、地域の防災への意識づくりをさらに牽引し、障害がある人もない人も「誰一人取り残さない防災へ」と大きく進むことを願っております。



根郷防災倉庫

私の宝物 「家族と友」



徳島県身体障害者連合会 理事
徳島市身体障害者連合会 副理事長
木川 美千代

私が嫁いで57年になりますが、本当に大事にさせていただきました。義理の祖母103歳、義父98歳、義母の85歳、全員見送り寂しくなりましたが、娘を2人授かり、今は孫が5人います。核家族を望む若者が多い中、内孫が結婚して孫夫婦と一緒に隣にいてくれることとなり、元のにぎやかな大家族となりました。本当にうれしいと共に、ありがたく感謝です。

いつも私を支えてくれてありがとう。なかなか言葉には表せないけれど、いつも一緒にいられることの感謝とこれからの人生の支えになってくれることを

願うばかりです。家族は、私の宝物です。友に関しても、いつも楽しい場を作ってくれてありがとう。60歳で障害者となり、痛みを共に分かち合える友がたくさんでき、どんなに励まされたことか、感謝しかありません。「障害=暗」と思い込みの人生が、友のおかげでこの20年近く充実感があり、楽しく明るく過ごすことができたのも、友がいたからと幸せを感じています。まだまだ皆さんと一緒に元気で過ごせることに感謝しつつ、豊かな人生を送ることが一番の願いです。友も、私の宝物です。

※身障とくしまでは、毎号地域で行われている活動をご紹介します。ぜひ、皆様の活動をお寄せください。

晴れ渡る眉山山頂に来るのは何年ぶりでしょうか。心地よい日差しがここ一泊研修会の行われる眉山山頂の施設に暖かいぬくもりを届けてくれる午後、玄関ホールに参加者が元気な笑顔で集合いただきました。

米川支部長から一泊研修会を8年前、ここがまだかんぱの宿として営業していた時にも研修会を開いたことや上勝町月が谷温泉、穴吹町油屋、海陽町遊々NASA、近年は、鳴門市アオアオリゾートホテルなどで開催してきたこと、宿泊をしながらゆっくり会員同士の親睦を深めたり入浴研修を学んでほしいことなどが話されました。

そのあと特別に徳島県身体障害者連合会の林徳太郎理事長が激励にお越しいただき、近年会員が激減していることや肢体障害者のうち内部障害者の比率が多くなりつつあり、一翼を担っているオストミー協会の活動に期待するとともに、障害者福祉と一緒に

取り組んでいただきたい。ご協力をお願いいたしたいと述べられました。

私たちオストミー協会においても、高齢化や亡くなる方、コロナで集まる機会が抑制されたことなどで同じように会員が少なくなっています。知り合いの方があれば紹介いただいたり、研修会を一般の方々にも共に参加いただき賛同を得ながら仲間を増やしていきたいと考えています。

研修会では、皆様からの体験発表や入浴に先立って装具に貼り付けるシールの使用方法をみんなで確認し、希望者の空いた時間での入浴体験を実施しました。夕食は、好きなものを好きなだけいただけるバイキングで料理もたくさんあり、お酒の飲み放題が2,000円(個人負担)でおいしく、楽しく和気あいあいのうちに夜も更けて情報交換やよもやま話に花が咲きました。宿泊施設の眼下には、10万ドルの夜景がロマンチックに彩られ無料の

イルミネーションを楽しめました。

2日目は、漏れに対する実情と対策が発表されたり、装具が外れるのを防ぐ腹巻やストーマベルトの紹介があり、お楽しみ抽選会で終了となりました。研修会にはいつも参加していますが、新しい発見や出会いがあり楽しみです。次もいきますと手を振って再会を約束していただいた仲間に別れを告げ、新春の研修会を閉じ下山しました。

今回の研修会には17名が参加されました。そのうち4名が今年入会された方でしたが質問など積極的に発言していただいたり、食事も和気あいあいで打ち解けて大盛況でした。活発に意見が交わされました。



活発に意見が交わされました

眉山園だより

作業科の紹介 / 表装科

全国の就労施設でも珍しい取り組みとなっている表装作業。四国八十八カ所の掛軸や額、障子・襖の張り替えのご注文を頂いています。熟練の技術で県内外のお客様より好評です。



小星園だより

令和7年3月15日、山口俊一衆議院議員、村上耕司副知事、加美一成美馬市長をはじめ、ご来賓の皆様のご出席のもと、新施設「障害者支援施設小星園」の落成披露会を開催いたしました。

新施設は、平時は身体障害者の生活支援、機能回復訓練を担い、緊急時には、西部圏域をはじめ県内全域から在宅身体障害者の受入れを行う、障害者の安全・安心を確保する施設です。

新施設整備に温かいご支援とご協力をいただきました多くの関係の皆様方に深く感謝申し上げます。



新施設「障害者支援施設小星園」正面玄関でのテープカット

令和6年度 第11回徳島県障がい者マイスターについて

障害のある方は、創意工夫、研ぎ澄まされた感覚、鋭い独自の感性を持って、ものづくりなど様々な仕事に携わっておられます。徳島県では、平成26年から日々の努力工夫により優れた技術・技能を習得された障

害者の方々に「熟練した技術を持つ人」という敬意を込めて「マイスター」として認定しています。眉山園・社会就労センターかもなではすでに3名の利用者が「マイスター」に認定されています。令和6年度におき

ましては藍染羊毛フェルトで作るマスコット人形制作分野で社会就労センターかもなの宮崎貴志さんが認定されました。「マイスター」という称号を誇りに今後も日々の作業に取り組んでもらえたらと思います。

感謝状をありがとうございました ~第43回 障がい者の集い県民大会~

「第43回障がい者の集い県民大会」におきまして、後藤田知事から感謝状をいただきました。ありがとうございました。

私は40歳で失聴した聴覚障がい者です。当時は途方にくれ、家族や周りの人たちに助けられ、なんとか生活できる状態でした。人工内耳により聞こえを取り戻すことができましたが、リハビリが必要ですし、聞こえが以前と同じように戻るわけではありません。難聴者ではありますが、失聴してい

た時に比べると雲泥の差です。何か私にもできることはないかと模索しているとき、知人が徳島市のあゆみ園を紹介してくれました。茶道なら役に立てるかもと始めた



茶道指導は40年続いています。あゆみ園の園長先生をはじめ、お稽古に励んでくださった園のみなさんに感謝しています。お稽古には視覚障がいと聴覚障がいの方が参加しており、勤もよく、自分で工夫され熱心です。私が教えてもらうことも多いです。

県民大会では体験発表の若い方々からがんばる力をもらいました。現在80歳ですが、体に気をつけながら茶道指導をライフワークとして続けたいです。

栄えある表彰おめでとうございます

令和6年度被表彰者

厚生労働大臣表彰

社会福祉事業功労(令和6年11月26日)

三橋 一巳 (板野町)

更正援護功労(令和6年12月12日)

藤川 義男 (徳島市)

日本身体障害者福祉大会大会長表彰

身障福祉功労(令和6年5月16日)

稲井 稔幸 (上板町)

中・四国身体障害者福祉大会大会長表彰

身障福祉功労(令和6年11月8日)

兼松 久雄 (松茂町)

長町 進 (松茂町)

杉本 テル子 (東みよし町)

全社協会長表彰

社会福祉法人・福祉施設功労(令和6年11月26日)

三橋 一巳 (板野町)

徳島県社会福祉大会名誉大会長表彰

身障福祉功労(令和6年11月8日)

松岡那智雄 (美馬市)

島野 政勝 (石井町)

知事表彰(徳島県表彰)

社会福祉功労(令和6年6月3日)

伊藤 博美(佐那河内村)

知事表彰(障がい者の集い県民大会)

(令和6年12月7日)

※県身連推薦関係

身障福祉功労

栗原 正明 (徳島市)

井後 浩明 (吉野川市)

浦野 一好 (吉野川市)

自立生活模範

遠藤 雅己 (石井町)

油津 明美 (牟岐町)

感謝

板東 恵美 (徳島市)

岡山千賀子 (徳島市)

徳島県身体障害者連合会理事長表彰

(徳島県身体障害者福祉大会)

(令和6年12月7日)

身障福祉功労

鈴木 礼子 (吉野川市)

土井 彰久 (三好市)

山下 勲 (牟岐町)

四宮 正子 (美波町)

大西 高文 (東みよし町)

自立更生

野尻 許子 (徳島市)

永年勤続

西藤まさみ (徳島市)

篠塚 亮太 (徳島市)

(順不同、敬称略)